芳賀地下マップ

＊本市刊行の発掘調査報告書は、奈良文化財研究所「全国遺跡報告総覧」からダウンロードすることができます。

発掘したところ
古墳
城館・砦跡

0　1：25,000　1km

◆芳賀団地遺跡群

芳賀地区では、昭和48年より工業・住宅団地の開発に伴って大規模な発掘調査が行われました。高花台（当時嶺町・勝沢町の一部）・勝沢町・小坂子町に及んで行われた芳賀北部団地遺跡の調査をはじめとし、昭和50年に行われた芳賀西部団地遺跡、昭和51年から55年まで行われた芳賀東部団地遺跡の調査に至るまで、約40haもの広大な面積を調査しています。特に芳賀東部団地遺跡では、30ha以上を調査しており、縄文時代の竪穴建物跡60軒、古墳4基、古墳～平安時代の竪穴建物跡486軒、掘立柱建物跡206棟等、夥（おびただ）しい数の遺構を検出しています。ここでは、芳賀東部団地遺跡の様子を中心にご紹介します。

芳賀東部団地遺跡Ⅰ調査区全景

竪穴建物跡の調査風景

◆柄鏡の形をした竪穴建物跡　❶芳賀東部団地遺跡

縄文時代の竪穴建物跡の中には、床面に平らな石を敷き詰め、細長い張出をもったものもあります。このような特徴をもったものは、「柄鏡形敷石住居跡」と呼ばれ、縄文時代中期後半頃から現れるようになります。他には、石棒（長い棒状の磨製石器で子孫繁栄の祭祀に用いられた）や石壇（胎盤などを甕に納めて埋め、新生児の健康を祈願する施設）が設けられているなどの特徴が挙げられます。

芳賀東部団地遺跡では縄文時代中期末から後期前半頃のものと見られるものが調査区西側に集中して見つかっており、床面の中央に石で囲んだ炉が設けられていました。

柄鏡形敷石住居跡（J13号住居跡）

◆古墳～平安時代の集落跡　❶芳賀東部団地遺跡

芳賀東部団地遺跡周辺地域は、東西を谷に挟まれた3つの台地上に位置しており、弥生時代以後姿を消していた人々は、4世紀頃からこの台地上で再び集落を形成するようになります。その後、5世紀～6世紀前半頃まで生活の痕跡が再び途切れますが、6世紀中頃から11世紀後半頃まで継続して人々の生活の様子が確認できます。特に7世紀前半頃から西側台地上で竪穴建物跡の検出数が急増し、8世紀初頭頃からはそれまで古墳を造る墓域として利用されていた東側台地上にも竪穴建物跡が見られるようになり、生活範囲を拡大していった様子を見て取ることができます。

9世紀中頃まで竪穴建物跡の検出数は増加していきましたが、その後10世紀に入ると一転して数は減少の一途を辿っていき、11世紀後半になると竪穴建物跡は西側台地に見られるのみとなっていきます。

芳賀東部団地遺跡地形図

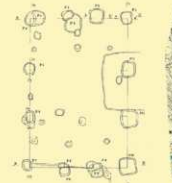
古墳時代の竪穴建物跡（H163号住居跡）

平安時代の竪穴建物跡から出土した遺物（H130住居跡）

◆有力集団の掘立柱建物跡　❶芳賀東部団地遺跡

芳賀東部団地遺跡は竪穴建物跡と併せて、掘立柱建物跡も多く見つかっています。掘立柱建物とは、地面に穴を掘って柱の根本を入れて立て、その周りを埋めて基礎を固めた建物です。ここで見つかっている掘立柱建物群は谷地に面した台地上に集中していることから、集落で力を持っており水田の開発を行っていた集団であった可能性が考えられています。また、掘立柱建物跡の付近には約8m四方を測る大型の竪穴建物跡が見つかっており、開発に携わっていた有力集団に関係する住居跡と考えられています。

掘立柱建物の柱の跡


K149掘立柱建物跡平面図

古代の竪穴建物跡と掘立柱建物跡

◆縄文時代の集落跡　❷❸五代深堀遺跡

縄文時代前期の人々は、地面を長方形に掘り窪めた竪穴建物に住んでいましたが、中期に入ると円形の竪穴建物へと形を変えていきました。芳賀地区では、この円形の竪穴建物跡が数多く見つかっており、この時期に集落が存在していたことがわかっています。

基本的な縄文時代の集落は、「環状集落」と呼ばれ、中央に設けられた広場の周りを囲むように竪穴建物が建てられます。広場には共同の調理施設や埋葬施設、祭祀施設などを伴う例が多く報告されています。五代遺跡群では、環状にめぐった竪穴建物跡の内側に土坑が多く分布していることがわかりました。土坑は墓や貯蔵用の穴と考えられており、大量の土器が見つかっています。

縄文時代中期の竪穴建物跡

五代深掘遺跡　土坑遺物出土状況

◆大量の縄文土器　❹❻五代伊勢宮遺跡

五代遺跡群からは縄文時代中期を中心として、縄文土器が数多く出土しています。多くは煮炊きをするために使用された深鉢が占めており、中には60cmを超える高さの大型のものまで存在します。

縄文時代中期につくられた縄文土器は、絢爛（けんらん）豪華で芸術的な造形が特徴で、本来土器を持ったり動かしたりするために付けられた把手は、機能的なものではなくなっていき装飾としての役割が大きくなっています。ほかにも、浅鉢や三角壔形土製品（7～8cmほどの三角柱状の土製品。点の列や沈線で模様が描かれている。）などの出土が見られます。

三角壔形土製品（五代伊勢宮Ⅳ遺跡）
縄文土器・浅鉢（五代伊勢宮Ⅵ遺跡）

五代伊勢宮Ⅵ遺跡出土の縄文土器・深鉢（右上）と展開写真（下）

◆文字が記された土器　❶❷❸❻五代伊勢宮遺跡・五代深堀遺跡・五代木福遺跡

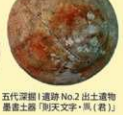
土師器や須恵器の中には、底部や側面などに文字や絵が墨でかかれた「墨書土器」や、筆などで刻まれた「刻書土器」が見つかることがあります。五代遺跡群ではこのような土器が各地で出土しており、五代伊勢宮Ⅴ遺跡や五代木福Ⅱ遺跡では三角形や台形などの図形と合わせて文字が書かれたものも見つかっています。中には、中国の女帝・則天武后が制定した「則天文字」が使用されている土器も出土しています。出土した墨書・刻書土器には字としてはっきりと読めないものや、1文字しか記されていないために意味がわからないものも多く含まれますが、記されている内容の多くはその土地の有力者の名や、官職名、施設名などが記されたものと考えられています。

五代木福Ⅱ遺跡出土遺物
墨書土器「上」

五代伊勢宮Ⅴ遺跡出土遺物
墨書土器「上」

五代木福Ⅱ遺跡出土遺物
墨書土器「本生」

五代深掘Ⅲ遺跡出土遺物
墨書土器「明」


五代深掘Ⅰ遺跡No.2出土遺物
墨書土器「則天文字・馬（君）」